

あけましておめでとう。本年は平穏な正月を迎え、心底から「あけましておめでとう」と言えた。この一年間、多くの方々から御支援を頂きました。改めて、御礼申し上げます。生徒の皆さんにもこれまで御支援頂いた方々に感謝して欲しいと思います。

思えば、一年前の1月第1週は、本校は通電しているということで、最大1千人の方が避難なさっていた。市役所職員や福井県職員、兵庫県教委、ピースウィンズ、自衛隊など、挙げればきりがないほどの方々から御支援を受けながら避難所運営を行っていた。加えて、生徒・職員の安否確認や県教委との連絡対応など正規の職務に追われながら、事務室の狭い地べたで寝起きしていた。今、余震が来たらこの上にある書架が落ちてきて下敷きだなど思いながら、それこそ眠りに落ちた瞬間に、ブレーカーが落ちたので直して欲しいと要請があったり、安否確認の外線が鳴ったりと、浮き寝に苛まされる日々を過ごしていた。町は、スーパー、コンビニ、金融機関、ガソリンスタンドが店を開けられず、社会機能不全となり、かろうじて病院だけが業務量を通常の数割程に落とした状態で細々と地域住民の健康を守っていた。本校はもちろんいろんな事業所に危機対応マニュアルが作られているが、それはその職員が被災していないという前提で作られている、または、大災害では職員も被災してしまうという現実的な想定が欠けていたことに、今更ながら気づいた次第である。

生徒全員の安否を確認した頃、このような状態では私大の出願が正常にできないのではないかと、いくらインターネット（web）出願ができて、珠洲からでは受験料の振込や書類の発送はできないのではないかと、ふと思った。そうだ！共通テストに向けて出発する前にweb出願を済ませ、共通テスト前日の1月12日（金）に金沢へ出て下見をした後直ぐその日のうちに受験料振込と発送を完了させなければならない。何としても、この地震が生徒の進路に与える影響を最小限に留めなければならなかった。更に、共テ受験ができるかももう一度確認する必要があった。そのことを担任に話すと、「もうそれは始めてます」とのことであった。自宅で出願環境が整っている生徒は自宅で、それが無い場合は学校で、学校にも出てこれない場合は教員が手分けし出向いてサポートするとのことであった。落ち着いて職員室を見渡すと、何人かの一般受験生徒がパソコンに向かって作業をしている。ホッとしたと同時に先を読んで対応を素早く始めてくれていた先生方に感謝した。幸い、本校には孤立した生徒はいなかったこともあり、ほぼ全員が予定通り共テを受けることができた。あんなに大きな揺れ・大きな被害に見舞われながらも、自身の目指す明星（あかぼし）に向かって邁進する生徒達の姿に飯高魂を垣間見た。

発災して1年が経ったが、概して飯高生はこれまで以上に落ち着いた学校生活を送り、地震を言い訳にすることなく学業や部活動をはじめとする課外活動に成果を積み上げてきたことに敬意を表す。対外的な優勝・入賞はもちろんのこと、校内の合唱コンクール・クラスプラカードには創意工夫が見られ、マラソン大会では好タイムを記録するなど、表彰伝達式や表彰式を行なうことが大変楽しみであった。末筆となったが、一般試験の受験生諸君！いよいよ人生の大勝負がやってきた。この後も健康に留意して追い込みをかけ、受験を楽しみながら、本懐を遂げることを願ってやまない。